

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育推進」に関する本校の実践

第 分科会
春日部市立 小学校

1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携(小中一貫)を含めて具体的にどのような取組をしているか。

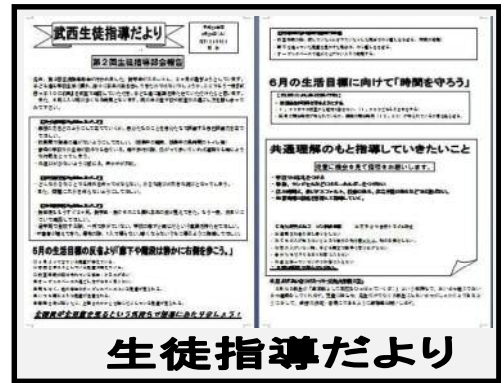
(1) 教師間の共通理解

①生活・学習の約束 (教師用)

生活と学習の細かな約束を年度当初に確認し、全教師が一丸となって児童の指導にあたるようにしている。

②生徒指導だよりの発行

児童の指導に対して教師間で指導のぶれがないよう、生徒指導委員会で話し合いを十分に行い、委員会後または必要に応じて生徒指導だよりを発行して共通理解・共通行動事項を明確にし、協力を呼びかけている。



③生徒指導委員会・校内委員会の充実

毎月行われる生徒指導委員会では、生徒指導の方針の確認や情報交換の場として資料を用意し、充実した時間になるように心がけている。また、特別支援コーディネーターと連携して生徒指導委員会に合わせて校内委員会を開いている。校内委員会は、「教室で気になる子への手だてとヒントを導き出すために」通常学級における個別の支援計画を一步進めることが目的である。いろいろな児童に対して担任が一人で抱えるのではなく、多くの目で子どものニーズをつかみ学校全体で支援・指導していくことができるように心がけている。今後も個別の指導計画を作成するなど生徒指導委員会・校内委員会を充実させ、校内の指導体制を確立していきたい。



④生徒指導ファイルの作成

全職員が一丸となった生徒指導を推進していくためには、自分の学級・学年のみならず他学年の実態も知ることが重要になってくる。そこで、取り扱いに十分注意して生徒指導ファイルを作成している。生徒指導委員会後、全職員が目を通すことで生徒指導委員会に出席していない職員も確実に実態を把握することができるようになっていく。

【生徒指導ファイルの作成の目的】

- 全職員が学校で起こっている生徒指導上の問題点を把握し、全職員で生徒指導上の問題の解決に向けて努力していく。
- ファイルを蓄積し、当該児童の状況を引き継いでいくことで継続して指導に生かしていく。

※児童のマイナ斯的な面に目を向けていくということではなく、健全に児童が成長していくために資料を生かすという考えで進めていく。



(2) 家庭と学校との共通理解

①武里西小学校 よい子の一日

生活と学習の約束を各家庭に配布し、理解と協力を求めている。

②家庭生活10の約束

家庭生活上で守ってほしい約束事を学校より示し、理解と協力を求めている。



家庭生活10の約束(保護者用) 10の約束(児童用)

(3) 児童と教師、児童同士の共通理解

①武西っ子10の約束

生活と学習の約束を全児童に配布し、約束の徹底を図るようにしている。

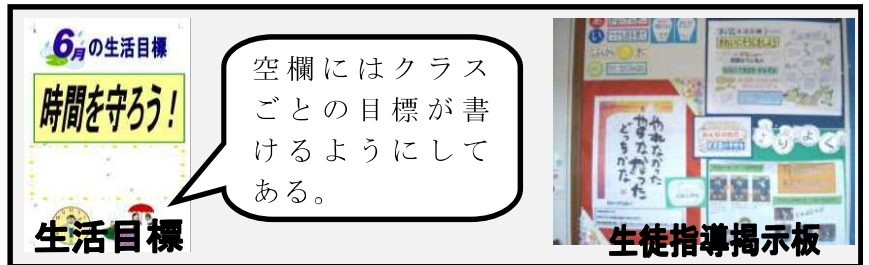
また、年度当初に学年集会などで取り上げることにより、学年間・学校間でのズレがないようにしている。学期に2回、児童全員に自己評価をさせ、努力に対する賞賛をしたり改善を促したりしている。また、教室に掲示しいつでも確認できるようにしてある。

②月別生活目標

月初めの講話朝会で全校児童に指導すると同時に、教室前面に掲示し指導の定着を図るようにしている。

③生徒指導掲示板の工夫

児童の目が届きやすい昇降口に、毎月你的生活目標に関する内容や詩を掲示することにより、児童の意識を高められるようにしている。



④あいさつ運動の実施

本校では、「武西あいさつ名人」の育成を目指して学期に2回の年6回あいさつ運動「あいさつでスーパー元気大作戦！」を行っている。この期間中、全校児童の集まる昇降口にあいさつ通りをコーンなどで設置している。あいさつ通りには4年生以上の全児童と全職員が交代で立っている。あいさつ通りに児童と教師が立つ目的は以下の通りである。

【あいさつ通りに4年生以上の児童を立たせるねらい】

- 全員が集まる朝の昇降口を盛り上げ、朝のスタートが気持ちよくきれるようにする。
- あいさつで元気な学校をつくるために一人一人の力が必要だという自覚を持たせる。

【あいさつ通りに教師が立つねらい】

- 朝の全校児童の登校やあいさつの様子から児童理解に努める。
- 児童のあいさつの実態を知り、指導に生かす。
- 自分の学級のみならず全校児童への生徒指導の視野を広げる。



武西あいさつ名人 掲示用



校内の掲示物

武西あいさつ通り

あいさつ運動

あいさつ名人認定証